

外国にルーツのある子どもたちの教育の現状と課題
～保護者支援の必要性と実態～
アンケート結果

開催日時：2021年9月5日(日)13:30～15:30

参加者：講師含み 名 アンケート回答者：21名

注：5～7の回答は「である調」とし、一部の文章を簡潔にした。

1. 年代をお伺いします。
50代：3名 60代：4名 70代：11名 80歳以上：3名
2. 大学女性協会の会員ですか
はい：19名 いいえ：2名
3. 3. 会員の方は支部名をご記入ください。
茨城：3名 東京：3名 神奈川：3名 静岡：2名 金沢：1名 京都：2名
奈良：1名 福岡：1名 長崎：2名 賛助会員：1
4. 勉強会の内容はいかがでしたか？
とても興味深かった：15名 やや興味深かった：5名 ふつう：1名
5. 勉強会の内容で印象に残ったことはどんなことですか？
 - *現場で如何に頑張られているか、とても感動した！
 - *3ヶ月の初期指導と市のHPにセミナーの資料の掲載。私の自治体との違いや類似することなどを知った。参考にしてより良い支援を構築していきたいと思う。
 - *西尾市の外国人児童生徒等支援体制がとても素晴らしいと思った。
 - *西尾市が市として取り組んでいることと、子どもを就園、就学させていない保護者に対して、丁寧な対応をされていることを伺い、素晴らしいと思った。これまで、近隣で、「女の子は国でも学校へ行かせていなかったから、必要ない」という保護者対応に苦慮した話を聞いたことがあったので、なおさら。
 - *地方自治体によって、随分と対応が違うということ。
 - *多言語対応にすでになっているという現実。西尾市における入学前のガイダンスがとても手厚いと感じた。それでも、多文化共生は進んでいないと菊池さんが言われたこと。
 - *就学説明会をきちんと行っていること。
 - *外国からきたかたの役に立つような支援をするには、外国語ができる必要があるなと感じた。日本語教師の資格を持っている知人は、今ベトナム語を現地のベトナム人からオンラインでマンツーマンで学んでいる。日本語を教える現場にたつと、困っている事態をきちんと把握するには必要だと実感するのだろう。異文化を理解するには日本語の本を読めば良いが、困っているかたとコミュニケーションをとり、役に立つにはやはりその人の母語を話せることが必要だと感じた。
 - *自治体の体制によるかもしれないが、まだまだ個人の意欲や努力に負うところが多いということ。
 - *愛知県の西尾市は存じませんが、1か所の市のみで詳細に提示したのは印象的だった。しかし、

提示内容について配布資料が完全でなくて、記載が間違えているところもあって若干気になった。

*直接子供や保護者に対応、指導されている方のお話は、具体的であり、とても説得力があった。

*外国人の子供や保護者がどのような問題に直面しているか、よくわかった。日本では、外国人労働者の受け入れを進める経済界の要求に対して、教育行政が追いついていないことが問題の原因だと思う。菊池氏のお話の中にあっただが、個々の子供や保護者に寄り添った、きめ細やかな支援はとても重要だと思った。西尾市の取組が同様な取組を行っている他の地域にも広く伝わると良いと感じた。

*子供達への支援だけでも大変なところ大変きめ細かい保護者支援をされているのに驚いた。各国語辞書作りは大変だろうが一度作れば重宝されることだろう。

*西尾市の外国人に対する支援政策の充実に驚き、日本語教師の研修などの充実ぶりにも驚いた。また、ブラジル人の多さについて質問があったと思うが、法務省から日系ブラジル人のことの説明を受けたことを思い出した。

*愛知県、静岡県など外国人の多い県の現状がよくわかった。

*外国にルーツを持つ子供たちに母国語以外の日本語で意思疎通できるようになるため実際に実行されているお話を聞くことができよかった。

*西尾市の行政、教育委員会の取り組みの熱心さ。

*支援の内容がとても具体的だったこと。

*児童の親がペルーやブラジルからの移民が多いことと、トヨタ自動車の下請け企業が多く、そこに就職している人が多い。次に、水産業の従事者、茶業、茶摘みのお手伝いなどの従事者が多いということ。

*西尾市と同じようなシステムが全国に広がればと思った。

*講師の菊池さんが、ブラジルで学んだポルトガル語を生かして、通訳だけにとどまらず、ボランティア活動から、行政の現地に入り込んで、多くの現状の問題に取り組んで行かれたのに感動した。これからも問題解決に、ますますのご活躍を祈っています。

*データを示してのお話がよかった。

*日本の生活に早く溶け込めるように、言葉だけでなく視覚的にも日本の生活習慣について家族にも伝える仕組みをもっていること。

*カラフルの取組で、高校生のスピーチが、とてもしっかりした内容だった。

6. 今後の日本語教育に関し、コメントがあればお書きください。

*「日本語」だけでなく、「共生」を意識したい。

*アメリカでは、もう 20 年以上前に、外国にルーツを持つ子のための英語教育の教科書が公的にできていた。それは、移民の多い国だったからの必然、ということだった。日本もそろそろそういう教科書を政府指導で用意すべき。とはいうものの、今の文科省でできるか、というと、甚だ疑問。歴史的に見て、かつ、やってきた成果を観察していると、あまりののろさにあきれているから。

*小学校から高等学校まで、どの段階で日本に来て、それぞれに適切な日本語教育がうけられるように、特に多くの外国にルーツのある子どもがいる自治体の経験を他の自治体でも活かせるように全国的に経験を共有できるようになればいいと思う。その方法が確立されることを期待する。

*子どもにとっては語学は単なる語学ではなく、思考言語の獲得であると思う。また、思春期に親と会話できる言語をいかに育てるかという問題もある。労働力を得るためだけの政策に、大きな疑問を感じている。

*日本語を教えている内容が、他の言語と異なる教え方があれば提示してほしい。

*外国にルーツを持つ子供達は二か国文化を持つ貴重な存在であることを誇りに持つような姿勢で教育してあげる事が大切だと思ひ。

*愛知県や静岡県などと外国人の少ない県の格差をどう埋めていくか、それが問題と思ひ。

*コメントではないが、先日「高校野球夏季大会」で勝利した高校の校歌を歌うのにテレビの画面で歌詞が「ハングル文字」で出てきたのにはびっくりした。もちろん小さな字で日本語訳はついていてた。多文化共生とはこういうことかしら？と複雑な気持ちになった。またパリのノートルダム寺院が火災にあった時、周囲で悲しんでいる人たちの中に黒人はほとんど見受けませんでした。(パリには多くの有色人種の方がおられるはず) このことからフランス語を育んだ文化はその歴史を持たない人たちには現時点での意思疎通の道具でしかないのでは？日本語も同様に長い間に育まれた文化に裏付けされているはず。相手の方の母国語も同じ。悩ましくなる。

*菊池さんの運営する KIBOU に西尾市が事業を委託して、行政（教育委員会）と協働で事業を展開していく方法が今の日本では最善かもしれない。そこに公認の資格ある日本語教師が配属され、行政、学校との連携を深めて一人一人に見合う支援が出来ればよいと思ひ。多様性が重視されるこれからの教育には国家資格を持った日本語教師の責務が大きくなるのでは。

*自治体によって、地域差があるように見受けられ、必要度も異なると思われるが、必要などころには、適切な手当てができる体制が整えられるよう見守りたい。

*学科アドバイザーや担任などの学校側との連携がより重要だと思ひ。

*外国にルーツがある子供たちの教育も大切だが、まだ若い母親にも、同時に配慮できる機会や手段があると良い、と思ひ。

*母国の文化も大切にしながらの日本語教育が大切だと思ひ。共に活かしあう多文化共生を軸にした。

7. 「外国にルーツのある子どもの教育」に関して、今後の勉強会で取り上げてほしいテーマや講師として招聘してほしい方があればお書きください。

*子どもたちの外国とのつながりは多種多様で、日本語支援が必要なのに見逃されてしまっている子どもたちが増えていると思ひ。また、なぜ母語支援が必要なのかということについても、現場や保護者自身にもまだまだ理解されていないと感じている。これらの、理解が進んでいない点についての学びができればと思ひ。さらに、子どもたちの人権という観点からの話も聞きたい。日本は子どもの権利条約を批准しているし、SDG s を考えても、子どもたちは教育を受ける権利をもっているのだから、私たちにはそれを適切に提供する責任があると思ひ。

*委員会にお任せする。でも、日本で生活している子どもたちは、今の日本に対してどのような印象をもっているのだろうか？調査した結果等あれば、寛容なのか不寛容な社会だと捉えているのか、本音を知りたい。そのような視点でお話しして頂ける方があれば聞いてみたい。

*先日の日経新聞（8/26 朝刊）で、在日外国人の子供のための特別入試枠を設けている国立大学は1校のみ（宇都宮大学）であり、グローバル化を進める上での課題となっている、との記事があった。一般入試は、外国人にはハードルが高すぎる。特別入試枠で大学に容易に入学出来る

よくなれば、子供たちにも励みになることだろう。ということで、外国人の子供の高等教育のあり方を取り上げてはどうか。

*①日本人の子供との交流。差別があるとすればそれはむしろ日本人の子供の方の問題になるでしょうが。

②日本に馴染むと同時に自分の母国をも大切に思えるような教育姿勢。

*現場の講師のお話を聞くのもよいが、子育てをした外国人のお話を聞きたいと思う。

*日本語教育に携わる人たちに共通して持ってほしい理念のようなものがあれば教えてほしい。単に少子高齢化の補いに外国人を受け入れるという安易な考えは賛成しかねる。外国の方が日本に住みたい、生活したいと選んでこられてじゃご一緒にというのなら別だが。日本語教育の現場の先生（支援員）を指導されている方がいらっしゃればお話を伺いたい。

*外国にルーツのある子どもの教育には、やはり行政のかかわりが絶対に必要なので、全国の地域の取り組み方には格差があるのでは？その辺の実態とか、国としてその地域的格差をどのように誰が管理調整しているのかを知りたい。

*医療通訳者や国際医療（国内開業、外国在住 どなたか）経験者、JICA専門員（保健）。人選はお任せか委員会で検討。